

感 染 症

相双地域感染症発生動向調査週報(2026年第28週)

(令和8年7月6日～令和8年7月12日)

令和8年7月16日

定点報告(上段:定点当たり／下段:報告数)、全数報告(報告数)		2026年					2025年	2024年
区 分	疾 病 名	25週	26週	27週	28週	合計	合計	合計
定点報告	インフルエンザ	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	582	2,558	1,616
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	2.00	1.33	0.67	3.33	－	－	－
		6	4	2	10	154	1,139	3,622
	RSウイルス感染症	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	31	156	309
	咽頭結膜熱	1.00	－	－	0.50	－	－	－
		2	0	0	1	9	78	337
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.50	1.50	1.50	0.50	－	－	－
		1	3	3	1	96	243	657
	感染性胃腸炎	0.50	－	0.50	－	－	－	－
		1	0	1	0	124	430	610
	水痘	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	4	10	6
	手足口病	－	1.00	1.00	5.00	－	－	－
		0	2	2	10	16	15	952
	伝染性紅斑	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	141	0
	突発性発しん	0.50	0.50	0.50	0.50	－	－	－
		1	1	1	1	17	59	182
	ヘルパンギーナ	－	－	0.50	－	－	－	－
		0	0	1	0	1	4	19
	流行性耳下腺炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	1	10	13
	急性出血性結膜炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎	－	－	1.00	－	－	－	－
		0	0	1	0	1	2	9
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	3	16	1
	クラミジア肺炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	0	0
	細菌性髄膜炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎	1.00	1.00	－	－	－	－	－
		1	1	0	0	15	42	16
	無菌性髄膜炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	0	0
	インフルエンザ入院	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	7	39	19
	新型コロナウイルス感染症(入院)	1.00	－	－	－	－	－	－
		1	0	0	0	22	56	120
	急性呼吸器感染症(ARI)	72.67	57.33	51.67	57.33	－	－	－
		218	172	155	172	5,115	8849	－
全数報告	レジオネラ症	1	0	0	0	3	5	3
	梅毒	0	0	0	1	2	3	6

カラー流行表示は、福島県感染症発生動向調査週報(IDWR)の表示をそのまま表示しています。

定点把握疾患	手足口病 が増加しています。
全数把握疾患	梅毒(60代1名) の届出がありました。

新型コロナウイルス感染症	相双地域及び県(県内総数)は、前週と比較して増加しました。 県内において5週続けて増加しています。7月から8月にかけては感染者が増加する傾向にあり、他県においては、子どもを中心に感染が広がっている事例が報告されています。基本的な感染対策を徹底し、感染に注意しましょう。
手足口病	相双地域及び県(県内総数)は、前週と比較して増加しました。 全国的に増加傾向で、県内においても報告数が増加しています。手足口病は、ウイルスの感染によって起こる感染症で、夏季において小児を中心に流行します。感染経路は飛沫感染、接触感染、糞口感染であり、感染後3～5日で口の中、手足に水疱性の発しんが現れます。予防のため、手洗いを徹底し、タオルの共用を避け、適切に排泄物を処理しましょう。
ヘルパンギーナ	県北を中心に報告数が増加しています。 ヘルパンギーナはウイルスの感染によって起こる感染症で、夏季において乳幼児を中心に流行します。感染経路は飛沫感染、接触感染、糞口感染であり、発熱とともに、喉に痛みと水疱が現れます。予防のため手洗い・うがい等の基本的な感染対策を徹底し、特に発症した乳幼児のおむつを交換した際は手洗いを十分に行いましょう。
麻しん	県内での発生は確認されていませんが、国内で感染の報告が続いています。 麻しん(はしか)は麻しんウイルスによる感染症で、感染すると咳、鼻水、高熱、発しんが生じます。空気感染が主な感染経路であり、極めて感染力が強く、免疫を持たない人が感染者に接するとほぼ全員が感染します。手指消毒やマスクのみでは予防することができません。最も有効な予防法は、ワクチンの接種です。海外からの輸入事例がほとんどであることから、特に海外へ出張・旅行に行く方は、ワクチン接種(2回)の有無を確認し、感染に十分注意しましょう。

基本的な感染対策のお願い

- ・咳やくしゃみ等の症状があるときは、マスクを着用したり、鼻や口をティッシュ等で覆うなど、他の人への感染拡大防止に努めましょう。
- ・流水・石けんによる手洗いは手指など体についたウイルスを除去するために有効な方法です。こまめな手洗いに努めましょう。
- ・室内ではこまめに換気をしましょう。窓開けによる換気は、対角線上にあるドアや窓を2か所開放すると効果的な換気ができます。
- ・普段と体調が異なる場合には、出勤や登校を控えるなどの体調管理に留意してください。

(参考・引用)福島県感染症発生動向調査、感染症週報、2026年第28号